

新たな電力買取制度を活かせる シャープならではの技術。 同じ屋根でも発電量が違います。

サイズの異なる太陽電池モジュールを組み合わせて設置できるルーフィット設計。

同じ屋根でも設置容量を増やすことができ、

より多く発電できるようになりました。

家庭で余った電力を従来の2倍程度(48円^{*1}/kWh)の価格で
買い取ってもらえる、新たな電力買取制度を大いに活かせます。

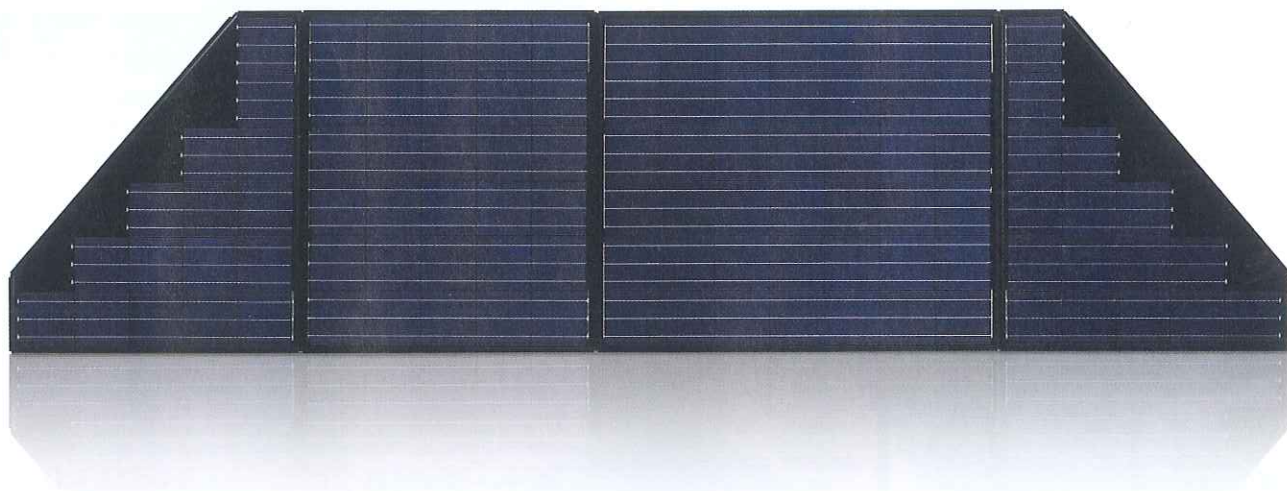


**ルーフィット
設計**



屋根にぴったりフィットする
ルーフィット設計

●対応機種:ND-160BW/114CW/061LW/RW



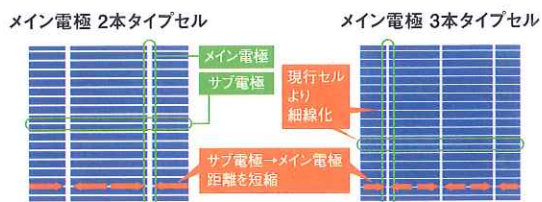
**高効率
セル**

高効率セルの開発

電極の細線化とメイン電極の3本化により、
高い変換効率を実現しました。

●対応機種:ND-191AW/163AW/160BW/114CW/061LW/RW

高効率セルのしくみ



電極の細線化
メイン電極とサブ電極を細線化 → 受光面積を増大

メイン電極の3本化
サブ電極からメイン電極へと電気が流れる(電子が移動する)距離を短縮 → 集電ロスを低減

**低反射
ガラス**

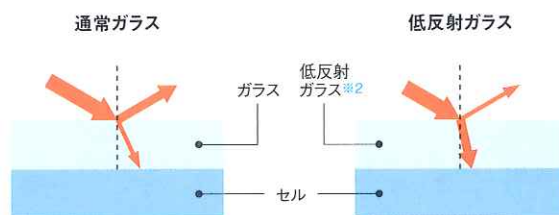
低反射ガラスの採用

低反射ガラス^{*2}を使用することで、
光の取り込み量をアップ。

●対応機種:ND-191AW/163AW/160AW/160BW/114CW/061LW/RW

低反射ガラスのしくみ

光の取り込みイメージ

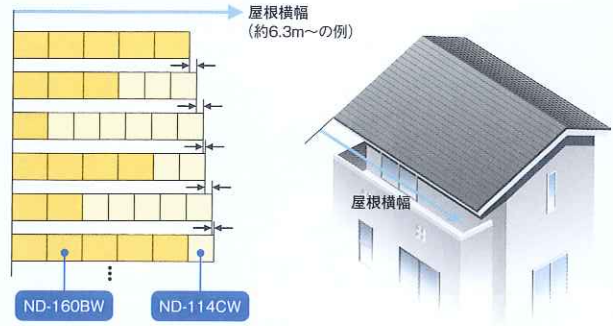


●太陽電池容量は、JIS規格に基づいて算出された太陽電池モジュール出力の合計値です。実使用時の出力(発電量)は、日射の強さ、設置条件(方位・角度・周辺環境)、地域差、及び温度条件により異なります。発電量は最大でも太陽電池容量の70~80%程度になります。 ●実際の設置枚数は設置条件等によって異なります。詳細は販売店にお問い合わせください。 ●太陽電池モジュールは、基本的にシステム販売です。 ●発電量の算出方法はP22"予測発電量の算出について"を参照ください。

様々な屋根に合わせて 効率よく設置

サイズの異なる太陽電池モジュール(ND-160BW/114CW)を組み合わせ、屋根の大きさに合わせて効率よく設置。横方向のルーフィット設計の場合は、7~25cm刻みでモジュールを増やすことができます。(屋根横幅約4.7m以上の場合。右図参照)

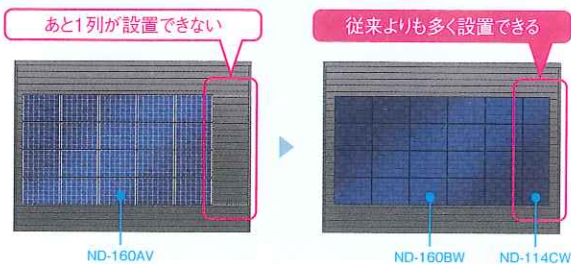
*縦方向のルーフィット設計の場合は、約7~31cm刻み(横方向約2.5m以上の屋根の場合)



設置容量がアップ

太陽光発電システムの設置容量が増え、発電量が多くなります。

切妻屋根の例



現行例

ND-160AV×20枚

太陽電池容量

3.20kW

年間予測発電量

3,463kWh

ルーフィット設計適用例

ND-160BW×20枚
ND-114CW×4枚

太陽電池容量

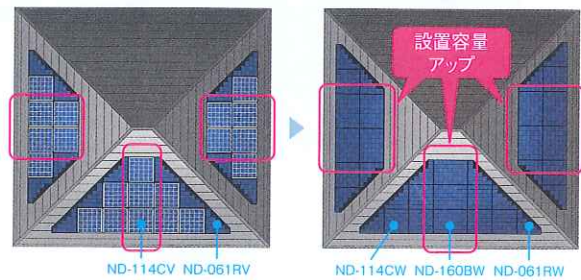
3.66kW

年間予測発電量

3,957kWh

発電量
アップ
494kWh

寄棟屋根の例



現行例

ND-114CV×21枚
ND-061LV/RV×14枚

太陽電池容量

3.24kW

年間予測発電量

3,508kWh

ルーフィット設計適用例

ND-160BW×11枚
ND-114CW×10枚
ND-061LW/RW×14枚

太陽電池容量

3.75kW

年間予測発電量

4,055kWh

発電量
アップ
547kWh

●年間予測発電量は、大阪市(南面設置、傾斜角30°)に設置した場合の一例です。発電量の算出方法はP22「予測発電量の算出について」を参照ください。気象条件・立地条件・設置条件などの諸条件により、実際の発電量とは異なる場合があります。

切妻・寄棟屋根対応

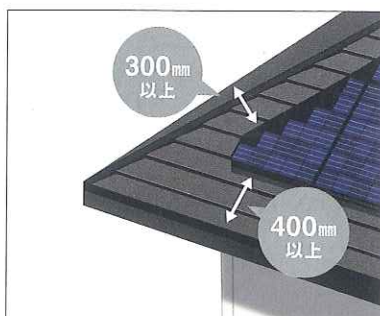
耐風圧 性能強化

耐風圧性能強化により、設置容量がアップ

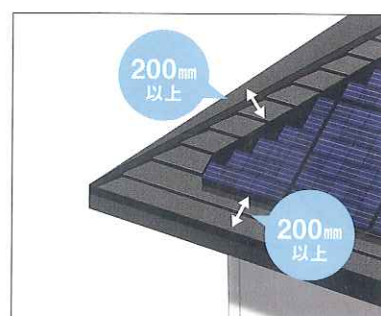
太陽電池モジュール及び架台(太陽電池モジュールを屋根に固定する金具)の耐風圧性能を強化。屋根における設置有効スペースが拡大し、従来よりも設置容量がアップしました。

●対応機種:ND-191AW/163AW/160AW/160BW/114CW/061LW/RW

現行例



ルーフィット設計適用例



●屋根材の種類等により、実際に設置できる範囲は制限される場合があります。*3

*1 2010年3月29日付 資源エネルギー庁発表による、2010年度分の住宅用買取価格。詳細については各営業窓口にお問い合わせください。

*2 気象条件、設置条件によってはガラス表面に色のばらつきが見える場合がありますが、モジュールの出力や品質上の問題はありません。

*3 新製品の設置条件は、基準風速38m/秒以下の地域で、設置高さ8m以下、屋根短辺寸法12m以下となります。実際の設置可能範囲は、屋根材の種類・工法によって異なります。